

合唱団の2度目の海外遠征から、もう1年が経とうとしています。本イベントについては、参加した人、参加できなかった人、思いは様々ですが、いまあらためて、ニューズレターに掲載します。

経緯については、木村機関長が「日本丸ガイド会誌」に書かれた文章を転載することにしました。このイベントの背景がよくわかると思います。また、エピソードは稲垣船長の「びっくり」です。

1. Hey ho, let's go to Bergen, Norway!

(1)ベルゲン帆船音楽祭

帆船日本丸を愛する男声合唱団の一員として、7月23日に成田出発、4泊6日の強行日程でノルウェーのベルゲンへ演奏旅行に行ってきました。海外遠征は、10年前のオランダのデルフセイル2003について2回目です。遠征団員の平均年齢は70歳、82歳を先頭に後期高齢者7人の旅は長距離でもあり出発前は多少不安を感じていました。しかし、ベルゲンの帆船音楽祭に参加し、シャンティパワーにより自信と勇気を貰い、元気に帰国しました。

ベルゲン帆船音楽祭は、STI(Sail Training International)主催のレース参加帆船乗組員による歌のコンテストやシャンティを歌うアマとプロの音楽グループの演奏が3日間、街中の3カ所に設けら



帆船音楽祭で賑わうベルゲンの港



特設ステージで歌う我が合唱団



帆船STATSRAAD LEHMKUL船上で

れたステージや帆船上で行われます。また街のいたるところでストリートミュージ

シャンが深夜（と言っても白夜ですが）、観光客を楽しませていました。およそ80隻の帆船と6000人の帆船乗組員と50万人もの観光客の集まるベルゲンで、日本丸合唱団は日本の民謡やシャンティを熱唱し、聴衆の歓迎と大喝采を受け

たのです。

歴史あるベルゲンの港は、幅約200m、奥行約1kmのU字型をした港ですが、埠頭の東側には世界遺産に登録された三角屋根の建物が軒を連ねています。特設メインステージは港の一番奥のフィッシュマーケットにあり、合唱団は30分の演奏を2回行いました。またステージや帆船の甲板上で合同演奏を行いました。

(2) The Tall Ships Races 2014 Bergenと主催者のSTIについて

STI主催の帆船レースは、ヨーロッパを中心に年に何回か各地で行われています。2014年最大のレースはThe Tall Ship Races 2014と呼ばれ7月3日から8月2日の日程で行われました。第1レースはハーリンゲン（オランダ）からフレドリクスタッド（ノルウェー）、第2レースはベルゲン（ノルウェー）からエスビャーグ（デンマーク）の航程でした。

2014年はノルウェー建国200年という記念の年です。また、今回のレースやお祭りのホスト船として活躍したベルゲン船籍港の帆船STATSRAAD LEHMKULの建造100周年でもあります。この船は、ベルゲンの財団保有ですが、ノルウェー海軍の訓練船としても使用されています。100歳の帆船ですが、レースの結果は総合3位でした。今回のレースにはヨーロッパ15か国から、78隻の帆船が参加しました。そのうち全長約40m以上のAクラスの帆船は25隻ですが、最大は245人乗り組みのロシア船（3141GT）でした。

レースは、船の大きさ等によりA, B, C, Dの4階級に分け、さらに船の性能等の違いによりハンディキャップをつけて競います。もちろんレースですから少しでも早く走るよう各船は最大の努力はするのですが、本来の目的は帆船を通じての人づくりであり、主役は訓練生です。訓練生を含む乗組員の半分以上は、15歳から26歳までと規定されています。乗組員による優れた街頭パレードやシャンティに、さらに14か国の混乗乗組員や最少平均年齢（18歳）の帆船等にも賞が授与されました。

第1レースの到着港フレドリクスタッドからベルゲンまでのCruise in Companyはレースではなく、参加帆船はノルウェーの沿岸約350マイルを約一週間航海（上図点線の区間）し、6ヶ所の寄港地では各船乗組員相互と現地の人々との友好を深めながら第2レースの出発地であるベルゲンに集まります。



レースの最終到着地である、デンマークのエスビャーク港でも、3日間で50万人以上の人々が集い、帆船の入港を歓迎し、イベントを楽しんだようです。このように帆船レースがヨーロッパでは、一大イベントであることが伺えます。また、各ホスト港では、多くのボランティアの皆さんが活躍しています。



第2レーススタート



100歳のStatsraad Lehmkuhl(手前)と88歳のロシア帆船

主催者のSTIは帆船での訓練を通じての、青少年の育成事業や海洋環境の保護に取り組み、各国の帆船訓練の中心的存在です。2007年にはそれらの活動が評価され、ノーベル平和

賞の候補になりました。STIには約30の国の帆船訓練機関がメンバー登録しています。

今回も、日本からのレース参加はありませんでした。日本には世界に誇る航海訓練所の帆船「日本丸」「海王丸」がありますが、ヨーロッパでのレースの参加には、多くの制約があり容易ではありません。

帆船「海星」や「あこがれ」が、帆船訓練に活躍した時期がありましたが、前者は米国のOcean Voyage Instituteに引き継がれ、後者は大阪市から民間に移り船名を「みらいへ」とかえて、今年から、一般市民を対象に活動を開始しています。

(STIのメンバーであったSTAJ(日本セイルトレーニング協会)は2003年に解散)

EU諸国では、年間6万人もの人が約250隻の帆船で訓練をうけており、ヨーロッパの人々の海や船に対する関心の深いことが伺えます。

日本でも海の日が制定され海事思想普及のため「海フェスタ」を始め、全国各地で海に関する各種様々なイベントが行われています。海に囲まれている日本でこそ、これ等の行事を通じて海事により深い関心が広まることを願ってやみません。

(3)おわりに

今回の演奏旅行にあたって、**ホーコン・ヴァートル氏**には本当にお世話になりました。彼がベルゲン帆船祭りに我々を招待し、多くの演奏の機会を用意してくれました。彼はThe Tall Ship Race 2014 Bergenのプロジェクトマネージャーとして、船乗りの経験を生かした帆船を背景とした迫力のある演出と演奏は多くの人に感動と感銘を与

えました。彼に対して敬意と感謝の意を表します。

また、ノルウェー大使館、DNV(船級協会)、菊水酒造、IST、ノルウェー帆船SS Statsraad Lehmkuhl、ポルトガル帆船SS Santa Maria Manuela、ベルゲン市長、ベルゲン船長協会合唱団、現地のボランティア、随行された団員のご夫人及び応援団の方々のご協力に御礼申し上げます。

(T2:木村正次)

2. 異国の出会い!

2014年、7月23日から足かけ6日、ノルウェーの港町ベルゲンへの演奏旅行は北欧の地とは思えぬほどの暑さの中、それでも目的の2回のステージは好評のうちに終わり、参加者全員満足の笑顔と共に帰国した。これに加えて私には思わぬプレゼントがあった。

7月24日の第1回目のステージのあと、友達がいかに来ているとのこと。日本から離れたこの地に友達などある筈もなく、不思議に思いながら降りていくと、いやー懐かしい顔がいるではないか。

20数年前、客船当時の乗組員アルベルト。

彼とは知り合って30年近く、私が客船の勉強中、ヴィスタ・フィヨルドと言う五つ星の客船で出会ったハンガリー出身の優秀なウエイターで、その後私の最初の客船クリスタル・ハーモニーに誘い仕事を共にし、続いて客船飛鳥に呼んで日本人のお客様に本物のウエイターの腕を披露してもらった。彼はたまたまベルゲンに入港していた客船クリスタル・シンフォニーに乗船中で、休み時間我々のステージの前を通りかかり、右袖で見たような顔が歌っているのを見つけ会いに来てくれたとのこと。全くの偶然である。

余談、彼にシンフォニーを見学に来るか誘われ、たまたま一緒していた白石キャプテンと川島さんを誘いゲートまで行ったが生憎我々はパスポートを携行しておらず、船長は了解してくれたもののゲートの若い守衛が頑として通してくれず、やむなく諦めた次第。白石、川島ご両氏には大変ご迷惑をかけたが、川島さんは、「さすがにセキュリティが確りしている」と元JALのキャプテンらしいご感想でした。

7月26日第2回目のステージの時にもハプニングが訪れた。25年前、前述のクリスタル・ハーモニーの建造時から苦楽を共にしたジョン・エルトバーク機関長が奥さん、家族と共に突然私を尋ねてくれた。今回の帆船祭りでは、このフェスティバルを取り仕切られたホーコン氏の計らいで、我が合唱団は初日の練習時から集中的にインタビューを受け、かなりの時間テレビに露出した。彼はこのテレビを見てベルゲン郊外からはるばる会いに来てくれた次第。そう言えば、滞在中色々な人から「テレビで見たよ」との声を聞いた。テレビの効果たるや恐ろしいものではある。

こんな訳で辺境の地ベルゲンで思わぬ出会いに二度も驚かされることとなったが、世界は狭い、と同時に、これも世界を股にかける船乗り同志のなせる業との感を強くした出来事であった。

(B2 稲垣 孟)